

2024年7月29日

作成：WCR タスフォース team、SCAJ 事務局

## WCR（ワールド・コーヒー・リサーチ）2023年度レポートダイジェスト版

WCR2023 年次報告書をダイジェスト版にまとめております。オリジナル英語版と完全邦訳版も下記のサイトからご参照頂けます。

<https://worldcoffeeresearch.org/resources/annual-report-2023>

### 【コーヒー生産国におけるコーヒー栽培現場の現状】

コーヒーと言う植物は「高温」、「早魃」に弱い。「さび病」、「フザリウム菌」、「萎凋病」等が気候変動下でまん延傾向にあり、また高温化によりコーヒー生産量が減産傾向となり、コーヒー生産従事者の収入減少による離農が大きな課題となっている。

### 【WCR 発足の背景～地球温暖化】

昨今の世界的気候変動は、「温室効果ガス排出」によるものなのか？原因は世界的に特定されていないが、WCR は「温室効果ガスの排出」が原因と理解し、地球温暖化対策のコーヒー品種開発・検証プロジェクトを2011年頃に策定、現在に至る。

### 【これまでの WCR の活動】

コーヒー生産現場での問題解決のため、WCR は、貧困に喘ぐ生産者・産業従事者の収入増大を図るため、新たな品種開発を行い、その特性の検証実験を実施、種苗場の管理・運営の向上による生産者の利益に繋がる「苗木」、「種子」の開発を行い、生産者に配布することを目指している。

この目的達成のため、生産国、消費国の調査研究機関との協調・提携のネットワークを構築し世界的リーダーシップを目指し、各国のプロジェクトを推進している。

また、これら提携・協調の下で、新品種開発・検証・配布を実現しコーヒー産業の持続可能を構築するために必要資金がどれだけ不足しているかを検証している。

### 【WCR の品種開発】

- ✓ 生産効率の高い品種
- ✓ 消費者に評価されるだろう「高品質コーヒー」の品種
- ✓ 病気抵抗力・耐性のある品種
- ✓ 高温・早魃に耐性のある品種

## 【2023年 WCR グローバルハイライト】

●今年、WCR は世界の コーヒー研究開発投資のギャップを年間4億5,200万ドルと定義し、世界的な投資の拡大により、消費者の需要に対応し、気候変動や農家の経済的安定という課題に積極的に対応し、さらなる生産の集約化を克服するためのイノベーションを複数の国で加速できることを認識。

●Innoeva Global Coffee Breeding Network の6カ国に、5,000粒の遺伝学的にユニークなアラビカ種子を出荷した。

●ロブスタ種の遺伝的改良の機会に関する包括的な調査を実施し、エルサルバドルにあるWCRの研究農園にロブスタ種の育種コレクションを設置し、世界中のロブスタ種コーヒーブリーダーによる世界サミットを開催することで、世界的なロブスタ種育種ネットワークの基礎を築いた。

●81の種子場から28,540本のサンプルを採取して遺伝的純度を検査し、59の種子ロットの遺伝的適合性を評価し、22の種子場をラテンアメリカでのクリーンアップ活動のために選択することで、ラテンアメリカにおける高品質な植栽材料の入手可能性と利用しやすさを支援した。

●393人のオペレーターに苗床管理のベスト・アグリカルチャル・プラクティスのトレーニングを実施し、10カ所の実証用ロブスタ苗床を設立し、7カ所のアラビカ種ロットでクリーンアップを実施し、5つの地域別トレーニング・ビデオと接ぎ木マニュアルを公表し、UGACOF/Sucafina とのパートナーシップにより、約5万本のコーヒー萎凋病抵抗性（CWD-r）苗木を農家に供給した。

●中米のMOCCAとフィリピンのPhilCAFEを含む6カ国の2つの国際コーヒー開発プロジェクトに参加し、合わせて10万3,700人の農家を受益者とし、総額6,000万ドルを投資した。

米国を中心としたアドボカシー活動から、日本、オーストラリア、カナダ、ドイツ、EUを含む他国政府へのアドボカシー活動へと拡大し、WCRメンバー企業41社が消費国6カ国でのアドボカシー活動に参加することで、コーヒー研究開発への投資と支援を拡大した。

●ロブスタ種とアラビカ種の両方を掲載した最新のコーヒー品種カタログや、SNPマーカーを使用した迅速なアラビカ種DNAフィンガープリンティング・サービスを構築するためのデータベースなど、主要なオープンアクセス・リソースや知識製品を発表。

●29カ国177社の会員企業と協力し、コーヒー研究の世界的アジェンダを共有した。

詳細は、WCR 2023年間レポート原文及び邦訳文をご一読ください。

以上、